

令和2年度 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(高等学校における研究開発)」

担当者会議

～事例発表(プロフェッショナル型)～

令和2年7月30日(木) 15:10-15:55

報告者：島根県立出雲農林高等学校
研究開発主任 吉川 樹



はじめに・・・



人口：174,827人

高等学校：8校

中学校：14校

小学校：35校

※出雲市の人口・世帯数の推移(R2版)より抜粋

出雲市の現状分析 出雲市の特徴

人口

やや増加傾向にあるが、地域により偏りが見られる
※出雲・斐川地域は増加。その他5地域では減少傾向

雇用就労

生産年齢人口が減少傾向にある
※1次産業従事者割合：6.8%（内70%が60歳以上）

市の農業

出雲市の基幹産業として位置付けられている
※コメ・ブドウ・カキ・畜産業などが中心産業

※出雲市「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略[平成31年3月改訂版]」より抜粋

出雲農林高校の現状分析 ① 学校の特徴



植物科学科 野菜栽培



環境科学科 測量実習



食品科学科 果樹栽培



動物科学科 ふれあい動物園

出雲農林高校の現状分析 ②地域連携活動



海岸保全 ハマボウフウの提供

連携先：出雲市役所・(株)テクノシステム
市内小学校・地域自治協会 など

「出雲コーチン」ブランド開発

連携先：出雲コーチン利用促進協議会
県農業技術センター・地元農家など

出雲農林高校の現状分析 ③本校の課題

卒業年度	卒業生計 (人)	進学者 (%)	進学先			就職者 (%)	就職先	
			県外(%)	県内(%)	農林大学校 (%)		関連企業 (%)	県内就職 (%)
R1	151	55.0	66.3	33.7	7.2	43.7	47.0	92.4
H30	153	58.2	53.4	46.6	12.0	41.8	46.5	81.3
H29	159	50.9	64.2	35.8	10.0	49.1	38.5	80.8

生徒の多くが県外へ進学する傾向
そのまま他県で就職する流れ

県内就職率は年々上昇(R1は9割以上)
関連企業も増加しているが5割未満

出雲市と出雲農林高校の共通課題

- ① 出雲市の農業就業者数は**減少の一途**
- ② 就業者の**7割は60歳以上**と**高齢化が進行**

高校の使命

農業の担い手の輩出

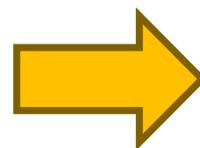
出雲という立地・資源を活かした農業を担う若年層の後継者の育成

コンソーシアム構築

① 共通基盤の設定

農業の担い手の輩出

出雲という立地・資源を活かした農業を担う若年層の後継者の育成



研究活動の共通理念

「目指す方向を明確に」

**持続可能な
出雲農業の実現**

安全安心な農業学習及び地域資源の活用に関わる持続可能な農業を充実させる

スマート農業の実現

ICT機器等を利用した情報活用技術に関わる学習を充実させる

**地域農業の核となる
人材育成**

習得した知識技術を広く発信するグローバルな精神を持つ人材の育成

コンソーシアム構築 ②コーディネーター

カリキュラム開発等専門家(県農林振興C)



持続可能な出雲農業の実現に
向けた農業学習法の開発



- ①GAP学習のベースづくり支援
【学習・取組・継続】
- ②ふるさとへの興味・関心・貢
献意欲醸成のためのカリキュ
ラム開発支援

コンソーシアム構築 ②コーディネーター

地域協働学習実施支援員(JA職員)



学習で得た知識・技能を
発揮する機会の提供



- ①地域課題を解決する実践力
育成のための協働体制の構築
- ②学校と地域による出雲資源を
活用した協働プロジェクト学
習の活動支援

コンソーシアム構築 ③本校のポイント

①コンソーシアムのトップに「出雲市長」

○人口17万人の中核都市におけるコンソーシアムの構築モデル

②高校・出雲市・企業の三者連携体制の構築

○共通基盤を達成するための協働体制の明確化

運営方法における課題

- 連絡・調整・協働体制の検討
- 継続・発展性のある運営方法の検討

コンソーシアム構築 ③本校のポイント

出雲農林高校支援コンソーシアム(出雲農業創生会議)



コンソーシアム構築 ③本校のポイント

第1回 委員会 2019.8.20(1h)

- (1) 令和元年度 事業内容説明：研究開発主任
- (2) 生徒による意見発表・課題研究成果発表**
 - ①意見発表：動物科学科 生徒1名の発表**
 - ②課題研究：植物科学科 生徒3名の発表**
- (3) 質疑応答・意見交換 等



第2回 委員会 2020.2.7(1.5h)

- (1) 規約・役員について
- (2) 令和元年度 事業報告：研究開発主任
- (3) 未来の農林業者激励：出雲市長より激励
【対象者10名に「希望の証」授与】**
- (4) 質疑応答・意見交換 等



令和元年度の活動

① ICT機器の導入・活用

教員対象の操作講習会



○教職員の操作技術向上

ICT機器を活用した授業展開



○生徒の視覚的理解の深化
○グループワークでの積極性向上

課題

活用できる教員が限定、授業では情報共有のみに活用
⇒教員間の授業力向上研修・ICT機器の活用方法の検討や発展

令和元年度の活動

②地域課題学習

農業キャリアガイダンス



○体験的な学習から理解が深化

企業による農業講話



○生徒の意欲向上
○学科の学びに沿った学習展開

課題

学校と地域(講師)とのすり合わせ(活動計画)が不十分
⇒事前事後学習の充実・教科との関連付け・学びのフィードバック

令和元年度の活動

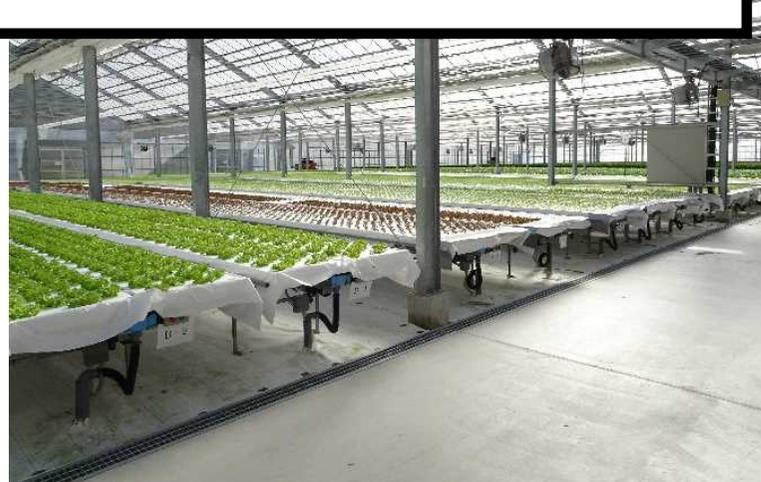
③スマート農業体験学習

スマート農業学習



- 生徒の反応が良く、興味関心が著しく向上

先進的な施設設備の見学



- 最新鋭に触れる機会
- 日々の学びと比較して見学

課題

新技術に触れる機会が少ない

⇒地域教育資源の把握・学習活動機会の方法について検討や工夫

研究開発 2年次 活動の主軸

- ① 出雲資源探求学習
- ② 出雲縁つなぎプロジェクト
- ③ 持続可能な農業学習(GAP)
- ③ スマート農業学習(市と協働)

① 出雲資源探求学習

持続可能な
農業学習

スマート
農業学習

地域課題
探求学習

○ R1農業キャリアガイダンスを発展

活動内容のポイント(R2.7時点)

① R1：地域の課題
⇒ R2：**地域の魅力**

② 「古くからある資源」 +
「今後生まれる資源」を学習

**出雲市のスマート農業技術
がカギ？**

第1学年
第2学年



詳細は現在検討中...

②出雲縁つなぎプロジェクト

持続可能な
農業学習

スマート
農業学習

地域課題
探求学習

○県[教育魅力化人づくり推進事業]との連携

活動内容のポイント(R2.7時点)

①第2・3学年の地域探究学習を統一

※科目：課題研究を中心に取組む

②「社会に開けた教育活動」の実現

地域との協働によるプロジェクト学習

**生徒が地域イノベーション
を起こす**

第2学年
第3学年



ブドウ苗木の生産で
地域振興(食品科)

③ 持続可能な農業学習(GAP)

持続可能な
農業学習

スマート
農業学習

地域課題
探求学習

○ GAP教育の範囲拡大～地域への普及～

活動内容のポイント(R2.7時点)

- ① R1⇒対象生徒が限定的
R2⇒全学年を対象にGAPを学習

- ② 上級生徒が下級生・地域へ指導
GAP理念の普及・波及効果を拡大

**地域のニーズに対応できる
人材育成**

全学年



**GAPを上級生が指導
できる体制づくり**

④スマート農業学習(市と協働)

持続可能な
農業学習

スマート
農業学習

地域課題
探求学習

○出雲市農林水産部との連携

活動内容のポイント(R2.7時点)

- ①スマート農業を学習する機会
⇒出雲市農水部の研究と連携(**R2新規**)
- ②ICT機器活用による授業の展開
探究学習の推進に関わる研究授業等

**スマートな経営を実現
できる人材育成**

全学年



自走トラクタ操作演習
(2020.5.28)

おわりに…

取組

- ① コンソーシアムの構築
- ② [地域との協働による高等学校教育改革推進事業]の推進

成果

- ① 地域ネットワークの強化
- ② 若い農業後継者の育成

効果

- ① 未知なる未来に**主体的に対応する**資質能力の育成
- ② **出雲市の農業振興**が実現

おわりに・・・

①コンソーシアムの構築

- 校内・コーディネーター＋**外部担当者**の存在
⇒大人同士の協働から生徒の学びへつなげることが重要

②校内研究推進体制の構築

- 従来の教育活動を事業に取り込むのではなく「溶け込む」ように
⇒本校の課題を教職員全員で解決する体制づくりにつながる

③コロナ禍に対応した事業体制の構築

- 伴走者との連携＋コンソーシアムとの連携
⇒オンライン機器・研修体制の整備や課外活動の検討・実施
-